

気候講演会2016

耳をすませば海のささやき

海を知るといふこと ～世界における海洋観測のこれまでとこれから～

須賀 利雄 東北大学 大学院理学研究科 教授

気象庁の海洋観測から見えてきたもの ～半世紀にわたる凌風丸の航跡～

中野 俊也 気象庁 地球環境・海洋部 海洋気象課 海洋環境解析センター所長

海の変化がもたらす未来 ～さかなちゃんたちもギョギョツとおどろく～

さかなクン 東京海洋大学 客員准教授

日時

平成28年 **10月17日** (月)
15:00~17:30 (開場: 14:30)

場所

気象庁 講堂

東京都千代田区大手町1-3-4 ※公共交通機関をご利用ください。

定員

200名 事前申込制・先着順

海や気候に関心のある方 (小学校高学年以上) 対象・参加費無料

申込

代表者のお名前、参加人数、電話番号、メールアドレスまたはFAX番号をメール (kikou-kouenkai@met.kishou.go.jp) またはFAX (03-3211-8309) でお知らせください。右のQRコードからメールアドレスを取得できます。



- 主催
- 後援 (予定)
- お問い合わせ

 **気象庁**  **日本気象協会** (一財) 気象業務支援センター

文部科学省 環境省 地球ウォッチャーズ-気象友の会-
気象庁 地球環境・海洋部 地球環境業務課 Tel: 03-3212-8341 内線: 4225 FAX: 03-3211-8309
E-mail: kikou-kouenkai@met.kishou.go.jp Web: http://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/climate_lecture/

耳をすませば海のささやき



海を知るといふこと 世界における海洋観測のこれまでとこれから
須賀 利雄 東北大学 大学院理学研究科 教授

地球温暖化の行方は？猛暑・大雨など異常気象の今後は？その鍵は海が握っています。海は、膨大な熱と水を蓄え、輸送し、大気と交換することにより、気候を左右しているのです。地球全体の海を継続的に測って、その変化を把握することが求められています。世界各国が協力して広大な海をどうやって測っているのか、最新の事情を紹介します。



気象庁の海洋観測から見えてきたもの 半世紀にわたる凌風丸の航跡
中野 俊也 気象庁 地球環境・海洋部 海洋気象課 海洋環境解析センター所長

みなさん、気象庁が観測船で海洋観測を行っていることはご存知でしょうか？気象庁の海洋観測の歴史は長く、1967年に「凌風丸II世」で開始した東経137度に沿った観測は、今年50年を迎えました。講演では、気象庁の海洋観測の歴史と、観測データから明らかになってきた北西太平洋の海洋環境の長期変動について紹介します。



海の変化がもたらす未来 さかなちゃんたちもギョギョッとおどろく
さかなクン 東京海洋大学 客員准教授

地球温暖化が魚をはじめとした海の生物たちに大きな影響を与え、私たちの生活にも変化をもたらすと言われております。ここでは、さかなクン自ら全国の海に足を運び、現地の専門家や漁業関係者から直接耳にした最新のリアルな情報を通して、皆様に地球温暖化の影響を受けつつある海の「いま」と「未来」についてわかりやすくお伝えします。

● 会場へのアクセス

